

研究課題名	左室拡張機能障害およびHFpEFリスクのマーカーとしての大動脈弁石灰化の意義
研究期間	2025年11月17日～2030年12月31日
研究の対象	2007年4月1日～2017年3月30日の間に、広島大学病院循環器内科で心臓CT検査および心エコー検査を施行された患者さん
研究の目的・方法	<p>研究目的：心臓のCT検査で見つかる「大動脈弁の石灰化（カルシウムの沈着）」が、心臓の動きの低下（特に広がるときの機能＝拡張機能の低下）や、心臓のポンプ機能が保たれているのに起こる慢性心不全（HFpEF）を予測できる指標になるかどうかを明らかにすることです。</p> <p>研究の方法：この研究では、過去の診療記録（カルテ）を調べて、心臓CT検査や心エコー検査の結果を集めます。そして、大動脈弁の石灰化の程度と心エコーで評価した心臓の動きの関係を調べます。さらに、大動脈弁に石灰化がある方が、将来的に心不全を発症する危険が高いかどうかを調査します。</p>
研究に用いる試料・情報の種類	カルテから使用する内容は年齢、性別、Body mass index、併存疾患(高血圧、糖尿病、高脂血症、慢性腎臓病、冠動脈疾患の既往、心房細動)、使用薬剤、血液データ(NT-pro BNP、Hb、Cr、eGFR、HbA1c、LDL-C、HDL-C、TG、空腹時血糖)、心エコー検査データ(LVEF、Global longitudinal strain、左室拡張末期径、左室収縮末期径、心室中隔壁厚、左室自由壁壁厚、左房容積、大動脈弁通過血流速度、組織ドプラ指標、左室流入速波形E/A、三尖弁逆流速度)、弁膜症の有無と重症度、心電図、CTデータ(冠動脈狭窄、左室容積、左室重量、腹部内臓脂肪、皮下脂肪、大動脈弁石灰化の有無と石灰化スコア)、臨床転帰(全死亡、心不全入院、非致死性心筋梗塞、非致死性脳梗塞)です。
利用または提供を開始する予定日	2025年11月17日（実施許可日以降）
個人情報の保護	得られた試料・情報から氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し、代わりに新しく研究用の番号を付けて取り扱います。
外部への試料・情報の提供	ありません
研究組織	本学の研究責任者 広島大学大学院医系科学研究科 循環器内科学 助教 宇都宮 裕人
その他	—
研究への利用を辞	研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方

退する場合の連絡先・お問合せ先	<p>もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としませんので下記の連絡先までお申し出ください。お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお、公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。</p> <p>また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。</p> <p>広島大学病院 循環器内科 担当者：医科診療医 高張 康介 〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3 電話番号：082-257-5540</p>
-----------------	---